

学校教育目標	
「ひびきあう心 輝く笑顔 ふれあいの丘 斎藤分」	
(知) 進んで学び、最後まで粘り強く課題に取り組むようにします。 (徳) 豊かな関わりを通して、思いやりの心をもち、自分も人も大切にするようにします。 (体) 運動や体力づくりを通して、心身ともに健やかに生活するようにします。 (公) 進んで人となりがり、地域や社会の一員としての自覚をもつようにします。 (関) 様々な人との関わりを通して、多様な考えにふれ、共生する力を育むようにします。	
教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	
〈問題発見・解決能力〉 〈自分づくりに関する力〉	具体化した資質・能力 ○自分らしさを発揮しようとする姿勢 ○他者を理解する態度・自己を理解する姿勢 ○様々な情報を活用・選択する力 ○伝え合うことで自分の考えを深化させる力 ○解決策を実行する力 ○試行錯誤する能力 ○結果の検討をする姿勢 ○問題解決の過程を振り返る
中期取組目標	
○子ども一人ひとりの考えを大切にしながら、課題解決の学びを充実させます。 ・1年目は学習の目的と見通しをもち学ぶことの楽しさを実感できる授業づくりを推進します。 ・2年目は1年目の内容に加え、伝え合う力を育てる授業づくりを推進します。 ・3年目は1・2年目の内容に加え、自分の考えを深め、生活や地域につなぐ授業づくりを推進します。 ○規則正しい生活・安全な行動を心がけ、心も体も健康な学校生活が送れるようにします。 ○地域や保護者とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まなを養う心を育てます。 ・3年間を通して、自分も他の人も大切にし、安心して学校生活を送り、豊かな体験から自己有用感をもつことができるようにします。	

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①算数科の授業研究を通して、目的と見通しをもち、学習に主体的に取り組む、自分のやり方がうまくいっているか確かめたりうまくいかないときは試行錯誤したりして、調整しながら学ぶ学習過程を追求する。 ②どの教科においても問題解決的な学びを目指すように子どもが関心をもつことができる導入や学習展開を工夫する。 ③自分の考えをもち、友達に伝えたり考えを聞いたりして、自分の考えをより深めたりできるように授業づくりをする。
担当	重点研究推進委員会

学力向上に関わる本校の状況	
(1) 学力と生活意識の概要 毎年概ね学習意識・生活意識は市平均か、やや高い水準を保っている。学年によって多少のばらつきはあるが、学力は比較的高く、生活水準も高い家庭が多い。 (2) 調査結果より ○国語科では、どの学年も概ね市の平均を上回っている。学年によっては、文学的な文章の読み取りに課題があることが分かった。 ○算数科においても、概ね理解しているようであるが、学年が上がるにつれて、空間図形や平面図形に課題がある。 ○社会科では、市の平均並かやや上回っているが、学年によってばらつきがあり、時期や時間の経過に関する問題や、位置や空間的な広がりに関する問題に難しさを感じたようである。 ○理科は、市の平均並みであった。昨年度の結果と比較してみると、学年が上がるにつれて正答率も下がっている傾向がある。 ○学習意識調査や生活意識調査は学年によってばらつきがみられる。学年や学級に応じた支援や手立てを検討していく必要がある。 ○昨年度から研究を始めた算数科では、「メタ認知」を高めることを視点の一つとして進めてきた。子どもたちが自分の学習を自覚的に捉えることで、主体的な学びが生まれるなど、一定の成果が表れている。一方で、授業中の反応が薄かったり、発言する人が固定化していたりなど、自信がない様子も見られる。今年度からはさらに、安心できる学習環境という視点からも取り組みを進めていきたい。	
今年度の目標	
・主体的・対話的で深い学びに取り組む子ども育成 ・重点研究では算数科を軸に、「メタ認知」に働きかける授業づくりを通して、資質・能力のさらなる育成を目指していく。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	① 自己の学習を把握する力を育てる ・算数科を要として、自らの学習を把握し、解決に向けて自己調整する力を育てる。 ・どの教科でも主体的に問題に取り組む課題を設定し、問題を見える力を高める。 ② 試行錯誤しながら粘り強く学ぶ力を育てる ・学習過程で友達との対話を通して、共に考え、学び合うことができる授業を行う。 ・結果や結論だけでなく、過程を重視する授業を組立てる。 ・成果や課題、学び方など、いろいろな視点から自己を振り返り、次につながる学びをつくることができるようにする。 ③ 安心できる学習環境づくり ・学習の見通し、視覚的、意図的なペア、小グループ、スモールステップなどを意識して授業を組み立て、どの子どもも安心して学ぶことができるようにする。 ・学年や学級の実態に応じて、ねらいに沿った称賞や自己決定を尊重することで、子どもたちが自信をもつことができるようにする。
下半期	

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①年間を通した異学年交流を行い、自他の思いや願い、状況を大切にして活動することを通して思いやりの気持ちや態度など他者と協働するための力を育てる。 ②日々の学校生活において、言葉を大切にできるようにする取組を行う。 ③人権尊重の精神を基礎とする授業づくりを行う。
担当	道徳部

豊かな心に関わる本校の状況	
(1) 豊かな心に関わる子どもの実態 本校児童は、全体的に穏やかで、素直に何事にも一生懸命取り組むことができる。ほとんどの学年が単級で6年間過ごすため、お互いのことをよく理解し、優しい声をかけ合うことができる。 一方で、友達と上手に関わろうとするあまり、自分の考えを表に出すのをためらってしまったり、自分らしさを抑えてしまったりするなどの傾向が見られる。また、高学年になるにつれて、行事の略などに前に出る児童が固定化する傾向も見られる。 生活意識調査からは、特にどの学年も「自分の夢や目標があると答えた子どもが多い傾向が見られたが、「自分のことが好きか」等の自己肯定感に関する質問には、学年が上がるにつれ、下がっていく傾向が見られた。 (2) これまでの学校の取組状況 6年生を中心としたたてわり活動(ふれあいグループ)による異学年交流を行っている。 人権週間では、言葉の大切さを意識できる取組を行い、言われた相手はどのように感じるのかについて思いを馳せることで、他者の思いに気づきかけをつくるようにした。 日頃の道徳教育の中で、役割演技や心情的想像を行うことで、自分以外の他者に寄り添う経験を積み重ねてきた。	
今年度の目標	
異学年交流や体験的な活動を通して、豊かな人間関係を築くとともに、一人ひとりの子どもが自己有用感を育み、自他を大切にすることを育てる。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	・6年生が中心のたてわりグループ(ふれあいグループ)では、リーダー意識と自己有用感を高めるとともに、各学年が自らの役割を果たして活動することを通して、お互いを思いやる気持ちや協力しようとする気持ちを育てる。 ・各学年の取組で実行委員などリーダー経験を積み重ねられるようにし、それぞれが自信をもって取り組めるようにする。 ・学校行事や各教科等、豊かな体験との関連を図った道徳科の指導を行うようにする。 ・Y-Pアセスメントを実施し、学級や児童一人ひとりの課題を把握し、全教職員で「誰もが安心して豊かに」過ごせる学級風土づくりを目指していく。 ・Y-Pプログラムを活用し、安心して過ごせる雰囲気づくりに繋げていけるようにする。 ・子どもたちの自尊感情を育てるために、「わかった」「できた」を感じられ、安心して自分を表現し、互いの考えを認め合うことができる授業づくりに取り組む。 ・校内で職員研修を行い、人権的な視点に立った関わり方を学ぶ。
下半期	

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康・安全教育	①体育朝会・集会を実施し、体を動かす楽しさを感じ、運動することを習慣化できるようにする。 ②学習指導要領を契りし、学びのめあてづくりや発表の場としての運動会を実施する。 ③養護教諭による保健指導や栄養職員による食育指導を行い、心身ともに健やかな子どもをも育成する。
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況	
(1) 健やかな体に関わる児童の実態 令和7年度の市の平均と比べると、どの項目も概ね平均か、少し上回っている。しかし、1日の運動時間が少ない学年が多いことが分かる。また、50m走、立ち幅跳び、反復横跳びの結果が低い学年があることが分かる。 ➡運動時間の確保と共に、スピード、持久力、敏捷性を高めていくことが、引き続き今後の課題である。 (2) これまでの学校の取組状況 体力テストの結果を分析し、足りない力に注目して運動を実施していた。日常的な運動のきっかけになるように、一校一実施運動で体育朝会(ラジオ体操、リズムジャンプ、ミニ運動会)、体育集会(斎藤分ストレッツ、大縄跳び)に取り組んだ。ミニ運動会は、休み時間に取り組んだ。今年度からは、更に休み時間を使った運動遊びを年間を通して計画するとともに、スピードや持久力、敏捷性を高めるための運動を意図的に取り入れていく。	
今年度の目標	
①体力テストの50m走、立ち幅跳び、反復横跳び、一日の運動時間の平均で、前の年を上回る。 ②健康な生活を実践する態度、自己の健康のために主体的に課題解決する力を育む。 ③心身の健康な生活を実践する態度を育む。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	① 体力テストの50m走、立ち幅跳び、反復横跳び、一日の運動時間の平均で、前の年を上回る。 ・体育朝会や体育集会で、瞬発力、俊敏性の向上に重点を置いた活動を実施する。特に、リズムジャンプを複数回実施していく。 ・ミニリンピックを数回開催することで、多様な運動に親しみ、楽しく運動能力を向上させていく。立ち幅跳びや、走の運動、ボール運動も取り入れる。 ・運動時間を増やすために、鬼ごっこやボール運動を休み時間に行えるよう、各クラスに推進する。 ② 健康な生活を実践する態度、自己の健康のために主体的に課題解決する力を育む。 ・子どもが運動の楽しさや喜びを味わい、運動の日常化につなげられるよう、対話による課題解決や学習資料の活用等を実施し、体育科学習の充実を図る。 ・教職員の体育実践・安全研修を行い、体育科学習の充実を図る。 ③ 心身の健康な生活を実践する態度を育む。 ・保健の学習や給食の時間に、養護教諭の保健指導や栄養職員の食育指導を行う。 ・各種検診の目的や意義を子どもにわかるように説明し、健康や成長のために結果を生かすことができるようにする。
下半期	

